

平成二十六年二月投句

【志賀島】

松明の届かぬ闇に海凍てる

早春の磯暮るるまで波ぬれて

寒風に白装束の禰宜が舞ひ

勝利

鳶の空島にひろがり草青む

真理子

星冴ゆる神楽囃の遠音かな

防人の歌を尽くして島おぼろ

海の中道の外海春のなみ

遥拝所越しの大灘つちふれる

春の風鹿角堂を吹き抜けて

節子

ひれ酒を一献島に再会す

由紀子

焼山やかかつて狼煙の上がりし地

退りゆく潮に岩場の石尊揺れ

島宮の絵馬古りしまま寒椿

わたつみに夕日のほむら春告げて

光子

【お休み】

佳与子

春潮に沈む夕日を惜しみけり